

平成 29 年度 第 1 回高知市総合教育会議 議事録 (概要版)

- 1 日 時 平成 29 年 10 月 30 日(月)  
開会：午後 2 時 00 分 閉会：午後 3 時 30 分
- 2 開催場所 たかじょう庁舎 6 階人事課会議室
- 3 出席者
- |            |                      |        |
|------------|----------------------|--------|
| (構成員)      | 高知市長                 | 岡崎 誠也  |
|            | 高知市教育委員会 教育長         | 横田 寿生  |
|            | 委員                   | 谷 智子   |
|            | 委員                   | 西森 やよい |
|            | 委員                   | 野並 誠二  |
|            | 委員                   | 森田 美佐  |
| (事務局)      | 総務部長                 | 弘瀬 優   |
|            | 総務部市長公室政策企画課長        | 西成 英丈  |
|            | 総務部市長公室政策企画課総合政策担当係長 | 井上 祐幸  |
| (市長事務部局)   |                      |        |
|            | 高知市副市長               | 吉岡 章   |
|            | 高知市副市長               | 中澤 慎二  |
| (教育委員会事務局) |                      |        |
|            | 教育次長                 | 弘瀬 健一郎 |
|            | 教育次長                 | 高岡 幸史  |
|            | 教育政策課長               | 和田 典子  |
|            | 教育政策課教育企画監           | 和田 広信  |
|            | 教育政策課長補佐             | 吉本 忠邦  |
|            | 教育政策課指導主事            | 谷内 亮   |
|            | 教育政策課総務担当係長          | 横田 由紀子 |
|            | 学校教育課長               | 溝渕 隆彦  |
|            | 学校教育課教育課程担当副参事       | 今西 和子  |
|            | 学校教育課学校教育班長          | 西田 尚弘  |
|            | 学校教育課学校教育班指導主事       | 竹内 清貴  |
- 4 議 題 地域における教育力の充実について
- (1) これまでの高知市の取組の現状と課題
  - (2) これからの高知市における学校、地域とのあるべき連携、協働の在り方、推進について

## 5 議事の経過

- これまでの高知市の取組の現状と課題について、教育委員会事務局から【資料4】1～22 ページに沿って説明

### 1 現状

- (1) 高知市教育大綱
- (2) 高知市教育シニア・ネットワーク
- (3) 開かれた学校づくりの推進，コミュニティ・スクール推進事業
- (4) 地域学校協働本部，学校支援地域本部事業
- (5) 高知市特色ある学校づくり・地域連携推進事業

### 2 効果・課題

- (1) 実施校からの声，効果，課題
- (2) 子どもたちを見守る組織等の減少による影響

- 議論

(岡崎市長)

最近の動きを中心に説明した。高知市教育シニア・ネットワークの皆様は大活躍されており、子どもたちの成長に真摯に関わっていただいている。この方々がいなければ、高知チャレンジ塾等はできなかったと痛感しており、非常に感謝している。

(谷委員)

高知市が地域との連携に取り組むことは非常に重要。これからの教育は学校だけではできない。地域の力がないと学校教育は進まない。

コミュニティ・スクール推進事業の学校運営協議会の設置については、今年度から努力義務化されたため、今後、全国的にどんどん進むと思う。先行して取り組むことが大事である。

資料4の6ページに記載されている事業・取組は重要であるが、もう少し整理すると良いのではないか。「地域学校協働本部（高知市版）」と「学校支援地域本部事業」の内容は、そんなに変わらないと感じる。

(西森委員)

今は学校が開かれており、地域の方がどんどん入ってきているので、学校と地域の役割分担が重要になる。誰がリーダーシップを発揮するか、どのような役割分担にするかといった点は、どこで取りまとめるのか。

(岡崎市長)

地域における教育力の充実に係る事業・取組には、大きく分けて、学校運営に関する

部分と、学校行事の参画や支援活動に関する部分がある。それぞれ、誰が統括責任者になるかといった点を補足してもらいたい。

(教育政策課教育企画監)

学校運営に関する部分については、開かれた学校づくり推進委員会と学校運営協議会の窓口は学校側で、主に教頭先生が仕切り役になっている。

一方で、学校行事の参画や支援活動に関する部分については、主に地域コーディネーターが窓口となる。地域コーディネーターは、学校が望んでいることを正確に把握し、即座に対応してくれる方から選任している。

それぞれの事業・取組で役割分担ができていますので、学校は非常に助かっており、負担が軽減されている。

(岡崎市長)

学校訪問をしても、昔は学校に地域の方がいなかった。今は様々な方が入ってきており、雰囲気が良くなっている。

(教育政策課教育企画監)

開かれた学校づくりということで、平成9年度に推進委員会を設置した頃から、地域の方が徐々に入ってきてくれるようになった。

(野並委員)

他県では、幼稚園や学校の開設にあたり、騒音問題等で建設を反対するような風潮が一部にあるようだ。今後、高知にそのような風潮ができないとも限らない。そのためにも、地域との関係をより深めておくことが必要である。

資料4の20ページに「学校や子どもたちの見守りに関係する機関・団体等」が記載されているが、これらの機関・団体等が集まって、学校や地域と交流できるような協議会はあるのか。

(教育政策課教育企画監)

教育委員会ではなく、市長部局の市民協働部であるが、各校区、地域に散在する組織や団体を地域の中で連携させるために、地域ごとに地域内連携協議会を設置し、一つにまとめていこうとする動きがある。

(岡崎市長)

地域内連携協議会は、潮江地区や旭地区のようにエリア的に広いところや、久重地区のように、非常にコンパクトにまとまったところにも設置されている。それぞれの地域内連携協議会の活動には、特性がある。

(吉岡副市長)

現在、20の小学校区で地域内連携協議会が設置されており、最終的には、全小学校区での設置を目指している。地域内連携協議会と学校と包括支援センター等をうまくリンクさせながら、医療・介護関係も含めて、全体的な底上げを図ることが今後の課題である。

(岡崎市長)

今議論になっているのが、学校のプラットフォームであり、地域のプラットフォームに基づくのが、地域内連携協議会である。

(森田委員)

学校に関わってくれる地域の主体を多様化するため、例えば、働いているお父さんや、学校や地域との繋がりが無い方、PTA等の地域と関わる活動をしなない方に対し、学校と関わるきっかけを作ることが必要ではないか。

資料4の22ページに、潮江中学校の生徒が地域のごみ分別作業を手伝ったことが記載されているが、これは、少子高齢化が進む中で、地域とどのように関わるか、地域の課題をどのように解決していくかという教材そのものだと思う。

学校が地域に関わっていく活動は、学習要領と直結するものであり、様々な教科において、実践的な学習に繋がるのではないか。

- これからの高知市における学校、地域とのあるべき連携、協働の在り方、推進について、教育委員会事務局から【資料4】23～29ページに沿って説明
  - 1 学習指導要領及び教育再生実行会議の提言から
  - 2 今後のあるべき学校、地域との連携、協働について

- 議論

(岡崎市長)

先ほど森田委員から3点出ていましたので、そこを含めて、事務局から説明を。

(教育政策課教育企画監)

働いているお父さん方を中心とした連携の進め方としては、例えば、自分が住む地域の学校ではなくても、職場の近くにある学校に出向いて、そこで何か新しい出会いを築いて、それを自分の住む地域に還元することだと思う。

具体的には、教育委員会と高知商工会議所の連携ということで、商工会議所に加盟している事業所で働く方や役員の方による出前授業を通じて、キャリア教育の支援をさせていただいているが、こうした取組によって、生徒との接し方などの理解が進み、それが自分の住む地域で活かされ、結果として高知市全体に広がっていくという展開が一つ挙げられる。

より多くの保護者に学校に来ていただくため、今後も引き続き、様々な仕組みを構築していかなければならない。

潮江中学校の例のように学校が地域に関わっていく活動は、地域社会への貢献ということで言えば、様々な教科に関連するものがある。

(学校教育課教育課程担当副参事)

地域との繋がりを教育過程に組み込むことは、新しい学習指導要領でもすごく求められている。総合的な学習の時間等でも、地域の人材をお招きして、キャリア教育の絡みでお話を聞くという取組を各校が実践している。

(弘瀬教育次長)

父親の学校参画の機会を広げるため、「おやじの会」というような会を作っている学校もあると聞いている。また、企業から学校に対して、何か協力できることはないかといった申し入れがあり、朝の交通指導で企業の方に街頭に立っていただいているが、そこに父親が協力してくれる場合もある。こういった形の取組もあると思う。

(森田委員)

上手に労働時間を削減しないと、地域の皆さんのご努力は大変なことになってしまう。ワークスマートという考え方の中で、削減した時間をどのように地域活動に充てるかといったことが大事である。

(吉岡副市長)

こうちこどもファンドを活用した取組を例にすると、愛宕中学校では、あたごの商店街の活性化を目的に風鈴や七夕飾りを作っている。潮江中学校では、防災関係で大変協力してくれている。横浜の方では、小・中学生と一緒に地域で耕作放棄地を借りて、そこで野菜を作り、高齢者と一緒に食事をしているなど、学校を挙げて地域と関わっている事例はたくさんある。

健康福祉部では、65歳を過ぎた方がリタイアするのではなく、各方面で様々な経験や知識を活かしていただくために、生活困窮者の中間的就労に繋がる取組も考えながら、学校や地域で活躍できる場面を作ることを考えている。いろんな切り口で、いろんなことが考えられる。

お年寄りも、子どもと遊んだりすると、すごく生き生きする。待っているのではなく、自分が社会の中で存在感を出せる、そういった取組も広めていきたい。

(西森委員)

「地域」という言葉の定義が曖昧ではないか。ここでは、学校外の教職員ではない方の力をお借りしようという意味での「地域」と、小学校区に着目した「地域」があって、この二つが重なって使用されている感じがする。

今必要なのは、身近なところでの人材という資源の掘り起こしではないか。地域ごとの特色のある資源や眠っている資源を把握し、掘り起こしていくことが大事である。地域ごとのカルテづくりのために、まず、情報収集が必要であるが、その辺りの方策はあるか。

(教育政策課教育企画監)

資料4の26ページに「地域の教育力の掘り起こし」という言葉もあるが、人材確保という課題を克服するためにも、地域コーディネーターも含めて、学校でいかに情報収集をしていくかということが大事である。発見した人材を学校にお招きする活動を通じて、また新たな人材に巡り合える。このようにして、人と人が繋がっていく。

(野並委員)

子どもに対して、「何か助けましょうか」という入り方ではなく、例えば、学校の中に子どものアイデアを汲み上げて、形にしてあげることができる仕組みがあれば、こうちこどもファンドにも繋がっていくのではないか。

(谷委員)

これからは、まちづくりや防災といった自分たちの目の前にある地域の問題をみんなで考える学習が非常に重要になってくる。学校が地域の核になる。そういった学習の在り方が求められている。

資料4の6ページ「地域における教育力の充実に係る4つの事業・取組」について、「もう少し整理すると良いのではないか」と発言したが、今後の方向性としては、先ほど、事務局から説明があった内容が適切であると思う。

「この学校の、この子どもたちのためなら、一肌脱ぎたい」と思っていたくために、信頼される学校を作らなければならない。一緒に活動することで、地域が盛り上がっていく、その中心に学校がある。そういった方向性で進めていきたい。

(岡崎市長)

その兆しは、それぞれの学校にある。潮江中学校の防災活動の取組は、防災まちづくり大賞において総務大臣賞を受賞している。特色ある学校づくりとよく言われるが、学校がそれぞれ個性を持って、バトンタッチしていくことが重要である。

学校とのパートナーシップがすでにできている地域と、これから作ろうとしている地域があるが、今日は、地域と学校がパートナーシップを結ぶ方向で動いているということは、一定ご理解いただいたと思う。

(横田教育長)

教育は学校だけでは、良い成果があげられないことだと思います。いろいろな事業が一遍に進まない背景には、地域ごとにある様々な課題や、それぞれの事情や経過が違っ

ていることがある。そうした地域の事情をよくみながら、進めていかなければいけない。国が言うように、一遍にはいかないが、それぞれ手続を踏んで、近づけていくということが重要である。

学校が保護者の方や地域の皆さんと連携していくときの基本にしたいこととして、高知市教育シニア・ネットワークができた頃に関わられた先生方の精神を大切にしたい。「OBだからといって、校長室で踏ん返り返って、横柄にするのではなくて、そつと子どもたちを見守ってあげることが大事であるし、そうことの積み重ねが教員たちにとっても頼りになる存在になるんだ。そういうところを大事にしていかなければならない」という話を聞くことがあった。学校側から強要できることではないが、保護者の方や地域の皆様に関わっていただくときには、そういうところを大事にしながら、学校がアプローチをしていく必要があると、改めて感じた。

(岡崎市長)

限られた時間であったが、それぞれの切り口からご意見をいただいた。学校運営に関わるということと、学校全体を地域のいろんな方々が応援しているということで、これからこの方向は、国も前面に出してくると思う。

自分も気になっているが、メニューが多すぎて、いろいろなものが複雑になっているので、確かに少しポイントを絞ることも必要だと思う。重要なところを見落としすることなく、コアなところをしっかりとやっていかなければならない。

● 閉会